

介護職員初任者研修カリキュラム(通信課程用)

事業者名 社会福祉法人ユーアイ二十一

研修事業の名称 太陽の家ケアスクール 介護職員初任者研修 (通信)

1 職務の理解 (6 時間)					
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法			
① 多様なサービスの理解	3 時間	<講義内容> 介護職が働くサービス現場にどのようなものがあるか、介護 編サービス (居宅・施設) とそれ以外 (障害者・児サービス 等) について理解する。 ・介護保険サービス (居宅、施設) ・介護保険外サービス ※テキスト附属 DVD			
② 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3 時間	<講義内容> 介護職が働くサービス現場にどのようなものがあるか、介護 編サービス (居宅・施設) とそれ以外 (障害者・児サービス 等) について理解する。 ・介護保険サービス (居宅、施設) ・介護保険外サービス <演習内容> ・職務の理解についてグループディスカッションを行い理解 を深める (介護職が働く現場や仕事の内容・サービス提供 現場を具体的にイメージする内容)			
合計	6 時間				
2 介護における尊厳の保持・自立支援 (9 時間)					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要

①人権と尊厳を支える介護	5.5 時間	1時間	4.5時 間	<p>問題1 <講義内容> 問題2 (ア) 人権と尊厳の保持 問題3 問題4 ・個人として尊重・アドボカシー・ 問題5 エンパワメントの視点 問題6 問題7 ・「役割」の実感・尊厳のある暮らし・ 問題8 利用者のプライバシーの保護</p> <p>(イ) ICF ・介護分野における ICF</p> <p>(ウ) QOL ・QOL の考え方・生活の質</p> <p>(エ) ノーマライゼーション ・ノーマライゼーションの考え方</p> <p>(オ) 虐待防止・身体拘束禁止 ・身体拘束禁止・高齢者虐待防止 法・高齢者の養護者支援</p> <p>(カ) 個人の権利を守る制度の概要 ・個人情報保護法・成年後見制度・ 日常生活自立支援事業</p> <p><演習内容> ・事例を基に「個人の尊厳を支える」とはどのようなことかグループ ディスカッションを行い、グループ ごとに発表する</p> <p><添削課題出題のポイント> ・高齢者のための国連原則に関する 問題 ・QOL に関する問題 ・ノーマライゼーションに関する問 題 ・バリアフリーに関する問題 ・虐待防止に関する問題</p>
②自立に向けた介護	3.5時 間	0.5時 間	3時 間	<p>問題9 <内容> 問題10 (ア) 自立支援 問題11 問題12 ・自立、自律支援・残存能力の活 問題13 用・動機と欲求・意欲を高める支 問題14 援 問題15 問題16 ・個別性/個別ケア・重度化防止</p> <p>(イ) 介護予防 ・介護予防の考え方</p> <p><添削課題出題のポイント> ・自立や自己選択・自己決定に関する 問題 ・介護予防に関する問題</p>

	合計	9.0 時 間	1.5 時 間	7.5 時 間		
--	----	------------	------------	------------	--	--

3 介護の基本（6時間）					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①介護職の役割、専門性と多職種との連携	2.0時間	1.0時間	1.0時間	問題 1 問題 2 問題 3 問題 4	<p><講義内容></p> <p>(ア) 介護環境の特徴の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問介護と施設介護サービスの違い・地域包括ケアの方向性 <p>(イ) 介護の専門性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重度化防止、遅延化の視点・利用者主体の支援姿勢・自立した生活を支えるための援助・根拠のある介護・チームケアの重要性・事業所内のチーム・多職種から成るチーム <p>(ウ) 介護に関わる職種</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異なる専門性を持つ多職種の理解・介護支援専門員・サービス提供責任者・看護師等とチームとなり利用者を支える意味・互いの専門職能力を活用した効果的なサービスの提供・チームケアにおける役割分担 <p><演習内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設と在宅の違いについて考えさせ発表を行う <p><添削課題出題のポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護実践の原則に関する問題 ・チームケアにおける各種専門職に関する問題
②介護職の職業倫理	1時間	0.5時間	0.5時間	問題 5 問題 6 問題 7	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門職の倫理の意義 ・介護の倫理（介護福祉士の倫理と介護福祉士制度等） ・介護職としての社会的責任 <ul style="list-style-type: none"> ・プライバシーの保護、尊重 <p><添削課題出題のポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士会倫理綱領の内容に関する問題 ・利用者のプライバシーに関する問題

③介護における安全の確保と リスクマネジメント	2.0時 間	1時間	1時間	問題 8 問題 9 問題 10 問題 11 問題 12	<p><講義内容></p> <p>(ア) 介護における安全の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事故結びつく要因を探り対応していく技術・リスクとハザード <p>(イ) 事故予防・安全対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ リスクマネジメント・分析の手法と視点・事故に至った経緯の報告（家族への報告、市町村への報告等） ・ 情報の共有 <p>(ウ) 感染対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 感染の原因と経路（感染源の排除、感染経路の遮断） ・ 「感染」に対する正しい知識 <p><添削課題出題のポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 危険予知訓練に関する問題 ・ 感染症・感染症対策に関する
④介護職の安全	1時間	0.5時 間	0.5時 間	問題 13 問題 14 問題 15 問題 16	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護職の健康管理が介護の質に影響 ・ ストレスマネジメント ・ 腰痛の予防に関する知識 ・ 手洗い、うがいの励行 ・ 手洗いの基本 ・ 感染症対策 <p><添削課題出題のポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護職員の安全衛生に関する問題 ・ 介護職員の心身の健康管理に関する問題
合計	6時間	3時間	3時間		

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 (9 時間)					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①介護保険制度	2.0 時 間	0.5 時 間	1.5 時 間	問題 1 問題 2 問題 3 問題 4 問題 5 問題 6 問題 7	<p><講義内容></p> <p>(ア) 介護保険制度創設の背景及び目的、動向</p> <p>・ケアマネジメント・予防重視型システムへの転換・地域包括支援センターの設置・地域包括ケアシステムの推進</p> <p>(イ) 仕組みの基礎的理解</p> <p>・保険制度としての基本的仕組み・介護給付と種類・予防給付・要介護認定の手順</p> <p>(ウ) 制度を支える財源、組織、団体の機能と役割</p> <p>・財源負担・指定介護サービス事業者の指定</p> <p><演習内容></p> <p>・実際に受講生が住んでいる市区町村の介護保険料等を調べ学習を行う</p> <p><添削課題出題のポイント></p> <p>・介護保険制度創設の背景や状況・動向に関する問題</p> <p>・要支援・要介護認定に関する問題</p> <p>・介護保険給付に関する問題</p> <p>・介護保険給付以外の事業に関する問題</p>
②医療との連携と リハビリテーション	3.5 時 間	0.5 時 間	3 時間	問題 8 問題 9 問題 10 問題 11	<p><講義内容></p> <p>・医行為と介護</p> <p>・訪問介護</p> <p>・施設における看護と介護の役割、連携</p> <p>・リハビリテーションの理念</p> <p><添削課題出題のポイント></p> <p>・リハビリテーションに関する問題</p> <p>・医行為に関するに関する問題</p>

③障害福祉制度およびその他 制度	3.5時 間	0.5時 間	3時間	問題 12 問題 13 問題 14 問題 15 問題 16 問題 17 問題 18 問題 19	<講義内容> (ア) 障害福祉制度の理念 ・ 障害の概念・ICF（国際生活機能分類） (イ) 障害福祉制度の仕組みの基礎的理解 ・ 介護給付、訓練給付の申請から支給決定まで (ウ) 個人の権利を守る制度の概要 ・ 個人情報保護法・成年後見制度・日常生活自立支援事業 <添削課題出題のポイント> ・ 障害者福祉の理念の概要に関する問題 ・ 障害福祉制度の仕組みの基礎的理解に関する問題 ・ 個人の権利を守る制度に関する問題
合計	9時間	1.5時間	7.5時間		
5 介護におけるコミュニケーション技術（6時間）					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要

<p>①介護におけるコミュニケーション</p>	<p>3.5時間</p>	<p>2.0時間</p>	<p>1.5時間</p>	<p>問題1 問題2 問題3 問題4 問題5 問題6</p> <p><講義内容></p> <p>(ア) 介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮・傾聴・共感の応答 <p>(イ) コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> 言語的コミュニケーションの特徴・非言語的コミュニケーションの特徴 <p>(ウ) 利用者、家族とのコミュニケーションの実際</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者の思いを把握する・意欲低下の要因を考える・利用者の感情に共感する・家族の心理的理解・家族へのいたわりと励まし・信頼関係の形成・自分の価値観で家族の意向を判断し非難することのないようにする・アセスメントの手法とニーズとデマンドの違い <p>(エ) 利用者の状況、状態に応じたコミュニケーション技術の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> 視力、聴力の障害に応じたコミュニケーション技術・失語症に応じたコミュニケーション技術・構音障害に応じたコミュニケーション技術・認知症に応じたコミュニケーション技術 <p><演習内容></p> <ul style="list-style-type: none"> 事例を通して利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術についてグループディスカッションする。 <p><添削課題出題のポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> 介護におけるコミュニケーションの基本に関する問題 利用者・家族とのコミュニケーションに関する問題 コミュニケーション技法に関する問題
-------------------------	--------------	--------------	--------------	---

②介護におけるチームのコミュニケーション	2.5時間	1.0時間	1.5時間	問題7 問題8 問題9 問題10 問題11 問題12 問題13	<p><講義内容></p> <p>(ア) 記録における情報の共有化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護における記録の意義、目的、利用者の状態を踏まえた観察と記録 ・介護に関する記録の種類・個別援助計画書（訪問・通所・入所、福祉用具貸与等）・ヒヤリハット報告書・5W1H (イ) 報告 <ul style="list-style-type: none"> ・報告の留意点・連絡の留意点・相談の留意点 (ウ) コミュニケーションを促す環境 ・会議・情報共有の場・役割の認識の場（利用者と頻回に接触する介護者に求められる観察眼）・ケアカンファレンスの重要性 <p><演習内容></p> <p>事例を基に、介護記録を書き、情報の伝達・共有するための有効な書き方についてグループディスカッションする。</p> <p><添削課題出題のポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・記録の意義と目的に関する問題 ・介護に関する記録の種類や書き方に関する問題 ・報告・連絡・相談に関する問題 ・カンファレンスに関する問題
合計	6時間	3時間	3時間		
6 老化の理解（6時間）					
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	添削課題番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要

①老化に伴うこころとからだの変化と日常	3時間	1.5時間	1.5時間	問題1 問題2 問題3 問題4	<p><講義内容></p> <p>(ア) 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防衛反応（反射）の変化・喪失体験 （イ）老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響 ・身体的機能の変化と日常生活への影響・咀嚼機能の低下・筋、骨、関節の変化・体温維持機能の変化・精神的機能の変化と日常生活への影響 <p><演習内容></p> <p>老化に伴う変化に着目した事例を用意し、事例に基づく討議を行う</p> <p><添削課題出題のポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・寿命と老化の特徴に関する問題 ・老化によるこころとからだの変化に関する問題 ・知的能力の老化と特徴に関する問題
②高齢者と健康	3時間	1.5時間	1.5時間	問題5 問題6 問題7 問題8 問題9 問題10 問題11 問題12	<p><講義内容></p> <p>(ア) 高齢者の疾病と生活上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・骨折・筋力の低下と動き、姿勢の変化・関節痛 （イ）高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点 ・循環器障害（脳梗塞・脳出血・虚血性心疾患）・循環器障害の危険因子と対策・老年期うつ病症状（強い不安感、焦燥感を背景に「訴え」の多さが前面に出る、うつ病性仮性認知症）・誤嚥性肺炎・症状の小さな変化に気づく視点・高齢者は感染症にかかりやすい <p><添削課題出題のポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の健康に関する問題 ・老化に伴う疾患に関する問題 ・高齢者に多い病気に関する問題
合計	6時間	3時間	3時間		

7 認知症の理解(6.5時間)					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①認知症を取り巻く状況	2.0時 間	1.5時 間	0.5時 間	問題1 問題2 問題3	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・パーソンセンタードケア ・認知症ケアの視点（できることに着目する） <p><添削課題出題のポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の中核症状に関する問題 ・認知症の人との関わりに関する問題
②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2.5時 間	1.0時 間	1.5時 間	問題4 問題5 問題6 問題7 問題8 問題9 問題10	<p><講義内容></p> <p>認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の定義・物忘れとの違い・せん妄の症状・健康管理（脱水・便秘・低栄養・低運動の防止、口腔ケア）・治療・薬物療法・認知症に使用される薬 <p><演習内容></p> <p>認知症ともの忘れの違いについて考えさせ発表を行う</p> <p><添削課題出題のポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の概念に関する問題 ・認知症の原因疾患に関する問題 ・認知症の人の健康管理に関する問題

③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	1.0時間	0.5時間	0.5時間	問題11 問題12 問題13 問題14 問題15	<p><講義内容></p> <p>(ア) 認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴</p> <p>・ 認知症の中核症状・認知症の行動、心理症状 (BPSD) ・ 不適切なケア・生活環境で改善</p> <p>(イ) 認知症の利用者への対応</p> <p>・ 本人の気持ちを推察する・プライドを傷つけない・相手の世界に合わせる・失敗しないような状況をつくる・すべての援助行為がコミュニケーションであると考えること・身体を通じたコミュニケーション・相手の様子、表情、視線、姿勢などから気持ちを洞察する・認知症の進行に合わせたケア</p> <p><添削課題出題のポイント></p> <p>・ 認知症ケアの基本に関する問題</p> <p>・ 認知症の行動・心理症状に関する問題</p> <p>・ 認知症の人のケアにおける介護職員の姿勢に関する問題</p>
④家族への支援	1時間	0.5時間	0.5時間	問題16 問題17 問題18	<p><講義内容></p> <p>・ 認知症の受容過程での援助</p> <p>・ 介護負担の軽減</p> <p><添削課題出題のポイント></p> <p>・ 家族への支援に関する問題</p> <p>・ 家族介護者へのエンパワメントに関する問題</p>
合計	6.5時間	3.5時間	3時間		
8 障害の理解 (3時間)					
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	添削課題番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①障害の基礎的理解	1時間	0.5時間	0.5時間	問題1 問題2 問題3	<p><講義内容></p> <p>(ア) 障害の概念と ICF</p> <p>・ ICF の分類と医学的分類・ICF の考え方</p> <p>(イ) 障害福祉の基本理念</p> <p>・ ノーマライゼーションの概念</p> <p><添削課題出題のポイント></p> <p>・ ICF の考え方に関する問題</p> <p>・ 障害者基本法に関する問題</p>

②障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかり支援等の基礎的知識	1時間	0.5時間	0.5時間	問題4 問題5 問題6 問題7 問題8 問題9 問題10	<p><講義内容></p> <p>(ア) 身体障害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 視覚障害・聴覚、平衡障害・音声、言語、嚥下障害・肢体不自由・内部障害 <p>(イ) 知的障害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 知的障害 <p>(ウ) 精神障害（高次脳機能障害・発達障害を含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 統合失調症、気分（感情障害）・依存症などの精神疾患・高次脳機能障害・広汎性発達障害・学習障害・注意欠陥多動性障害などの発達障害 <p>(エ) その他心身の機能障害</p> <p><添削課題出題のポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 身体障害・精神障害・発達障害に関する問題 ・ 脳性まひに関する問題
③家族の心理、かかり支援の理解	1時間	0.5時間	0.5時間	問題11 問題12 問題13	<p><講義内容></p> <p>家族への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害の理解、障害の受容支援 ・ 介護負担の軽減 <p><演習内容></p> <p>事例を基に、家族への支援、負担軽減の為介護者が出来る事を抽出し、支援方法についてグループワークを行う。障害の特性と介護士の留意点について理解を深める。</p> <p><添削課題出題のポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害の受容に関する問題 ・ 障害のある本人を支える家族への支援に関する問題
合計	3.0時間	1.5時間	1.5時間		

9 こころとからだのしくみと生活支援技術 (75 時間)

基本知識の学習	項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	添削課題番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
	①介護の基本的な考え方	1.5 時間	1 時間	0.5 時間	問題 1 問題 2 問題 3 問題 4 問題 5	<講義内容> ・理論に基づく介護 (ICF の視点に基づく生活支援、我流介護の排除) ・法的根拠に基づく介護 <添削課題出題のポイント> ・介護の基本的な考え方に関する問題 ・介護福祉士像に関する問題
	②介護に関するこころのしくみの基礎的理解	2.0 時間	1.5 時間	0.5 時間	問題 6 問題 7 問題 8 問題 9 問題 10 問題 11	<講義内容> ・学習と記憶の基礎知識 ・感情と意欲の基礎知識 ・自己概念と生きがい ・老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因 ・こころの持ち方が行動に与える影響 ・からだの状態がこころに与える影響 <添削課題出題のポイント> ・感情の基礎知識に関する問題 ・老年期の人間関係の特徴に関する問題 ・障害への心理的反応に関する問題

	③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	6.0時間	4.0時間	2.0時間	<p>問題12 問題13 問題14 問題15 問題16 問題17 問題18 問題19</p> <p><講義内容> ・人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 ・骨、関節、筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用 ・中枢神経系と体性神経に関する基礎知識 ・自律神経と内部器官に関する基礎知識 ・こころとからだを一体的に捉える ・利用者の様子の普段との違いに気づく視点</p> <p><演習内容> バイタルサインの測定（体温・脈拍・血圧測定）を行う。ボディメカニクスの基本原理に基づく操作を実施する。</p> <p><添削課題出題のポイント> ・人体の構造に関する問題 ・骨・関節・筋の基礎知識・ボディメカニクスに関する問題 ・自律神経と内部器官に関する問題 ・老化と加齢に関する問題</p>
生活支援技術の講義・演習	④生活と家事	4.0時間	1.5時間	2.5時間	<p>問題20 問題21 問題22 問題23 問題24 問題25 問題26 問題27 問題28</p> <p><講義内容> 家事と生活の理解、家事援助に関する基礎知識と生活支援 ・生活歴・自立支援・予防的な対応・主体性、能動性を引き出す・多様な生活習慣・価値観</p> <p><演習内容> 適切な栄養バランス・食材・調理方法・嗜好・予算を考えた食事の献立を作成する</p> <p><添削課題出題のポイント> ・家事と生活の理解に関する問題 ・生活能力を高める介護に関する問題 ・家事援助と生活支援に関する問題</p>

⑤快適な居住環境整備と介護	2.0時間	1.0時間	1.0時間	問題 29 問題 30 問題 31 問題 32 問題 33 問題 34 問題 35 問題 36 問題 37	<p><講義内容></p> <p>快適な居住環境整備に関する基礎知識、高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法</p> <p>・家庭内に多い事故・バリアフリー・住宅改修・福祉用具貸与</p> <p><演習内容></p> <p>ベッドや車いすを使用し、実際のバリアフリーのポイントを学ぶ。</p> <p><添削課題出題のポイント></p> <p>・快適な居室環境づくりに関する問題</p> <p>・環境整備に関する問題</p> <p>・住環境整備で心がけることに関する問題</p>
⑥整容に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護	7.0時間	6.5時間	0.5時間	問題 38 問題 39 問題 40 問題 41	<p><講義内容></p> <p>整容に関する基礎知識、整容の支援技術</p> <p>・身体状況に合わせた衣服の役割、選択、着脱・身じたく・整容行動・洗面の意義、効果</p> <p><演習内容></p> <p>・身体状況に合わせた整容の支援技術を身に付ける（洗面・洗顔・整髪・爪・化粧・髭剃り）</p> <p>・身体状況に合わせた衣服の選択、着脱（前開き・ズボン・かぶり）</p> <p><添削課題出題のポイント></p> <p>・衣服の役割に関する問題</p> <p>・整容に関する問題</p>

	⑦移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	8.5時間	7.5時間	1時間	<p>問題 <講義内容></p> <p>42 移動・移乗に関する基礎知識、さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法、利用者、介護者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援</p> <p>43 問題</p> <p>44 問題</p> <p>45 問題</p> <p>46 問題</p> <p>47 問題</p> <p>48 問題</p> <p>49 問題</p> <p>・利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法・利用者の自然な動きの活用・残存能力の活用、自立支援・重心、重力の動きの理解・ボディメカニクスの基本原則・移乗介助の具体的な方法（車いすへの移乗の具体的な方法、全面介助でのベッド・車いす間の移乗、全面介助での車いす・洋式トイレ間の移乗）・移動介助（車いす、歩行器、つえ等）・褥瘡予防</p> <p><演習内容></p> <p>・移動・移乗に関する基礎知識・必要性和介護技術を身に付ける</p> <p>・ベッド・車いす間の移乗介助・歩行の介助・体位変換</p> <p><添削課題出題のポイント></p> <p>・移動・移乗に関する問題</p> <p>・車いすに関する問題</p> <p>・移動と社会参加に関する問題</p>
--	---------------------------------	-------	-------	-----	--

	<p>⑧食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>7.0時間</p>	<p>6.5時間</p>	<p>0.5時間</p>	<p>問 題 50 問 題 51 問 題 52 問 題 53</p> <p><講義内容> 食事に関する基礎知識、食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援 ・食事をする意味・食事のケアに対する介護者の意識・低栄養の弊害・脱水の弊害・食事と姿勢・咀嚼、嚥下のメカニズム・空腹感・満腹感・好み・食事の環境整備（時間・場所等）・食事に関した福祉用具の活用と介助方法・口腔ケアの定義・誤嚥性肺炎の予防</p> <p><演習内容> ・食事介助・口腔ケア ・身体状況に合わせた、食事に関連したところとからだの仕組みの理解</p> <p><添削課題出題のポイント> ・栄養に関する問題 ・食中毒に関する問題 ・疾患と食事に関する問題</p>
--	-------------------------------------	--------------	--------------	--------------	--

	<p>⑨入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	7.5時間	6.5時間	1時間	<p>問 題 <講義内容></p> <p>54 入浴、清潔保持に関連した基礎知識、さまざまな入浴用具と整容用具</p> <p>問 題 55 の活用方法、楽しい入浴を阻害する</p> <p>問 題 56 ところとからだの要因の理解と支援方法</p> <p>問 題 ・羞恥心や遠慮への配慮・体調の確認</p> <p>57 認・全身清拭（身体状況の確認、室内環境の整備、使用物品の準備と使用</p> <p>問 題 58 方法、全身の拭き方、身体の支え方）</p> <p>問 題 ・目、鼻腔、耳、爪の清潔方法</p> <p>59 法・陰部洗浄（臥床状態での方法）</p> <p>・足浴、手浴、洗髪</p> <p><演習内容></p> <p>・入浴の支援技術・部分浴・洗髪・清拭</p> <p>・身体状況に合わせた楽しい入浴を介助する為の介助技術習得</p> <p><添削課題出題のポイント></p> <p>・入浴に関する問題</p> <p>・部分浴に関する問題</p> <p>・入浴介助に関する問題</p> <p>・からだの機能低下が入浴・清潔に及ぼす影響に関する問題</p>
--	--	-------	-------	-----	--

	<p>⑩排泄に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>7.0時間</p>	<p>6.5時間</p>	<p>0.5時間</p>	<p>問題 <講義内容></p> <p>60 排泄に関する基礎知識、さまざまな</p> <p>問題 排泄環境整備と排泄用具の活用方</p> <p>61 法、爽快な排泄を阻害するところと</p> <p>問題 からだの要因の理解と支援方法</p> <p>62 ・排泄とは・身体面（生理面）での</p> <p>問題 意味・心理面での意味・社会的な意</p> <p>63 味・プライド、羞恥心・プライバシー</p> <p>問題 ーの確保・おむつは最後の手段/お</p> <p>64 むつ使用の弊害・排泄障害が日常生活</p> <p>上に及ぼす影響・排泄ケアを受ける</p> <p>ことで生じる心理的な負担、尊厳</p> <p>や生きる意味との関連・一部介助を</p> <p>要する利用者のトイレ介助の具体的</p> <p>方法・便秘の予防（水分の摂取量保</p> <p>持、食事内容の工夫、繊維質の食物</p> <p>を多く取り入れる、腹部マッサージ）</p> <p><演習内容></p> <p>・身体状況に合わせた、爽快な排泄</p> <p>を介助するための技術習得。</p> <p>・排泄介助・ポータブルトイレ・紙</p> <p>おむつ・尿器</p> <p><添削課題出題のポイント></p> <p>・排泄に関する基礎知識に関する問</p> <p>題</p> <p>・排泄障害に関する問題</p>
--	------------------------------------	--------------	--------------	--------------	--

	⑪睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	7.5時間	6.5時間	1.0時間	問題 65 問題 66 問題 67 問題 68	<p><講義内容></p> <p>睡眠に関する基礎知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法</p> <p>・安眠のための介護の工夫・環境の整備（温度や湿度、光、音、よく眠るための寝室）・安楽な姿勢、褥瘡予防</p> <p><演習内容></p> <p>・ベッドメイキング</p> <p>・快い睡眠を支援する為の知識と技術を習得</p> <p><添削課題出題のポイント></p> <p>・睡眠に関する基礎知識に関する問題</p> <p>・褥瘡予防に関する問題</p> <p>・寝室の環境に関する問題</p>
	⑫死にゆく人に関するこころとからだのしくみと終末期介護	3時間	2.0時間	1.0時間	問題 69 問題 70 問題 71 問題 72 問題 73 問題 74 問題 75	<p><講義内容></p> <p>終末期に関する基礎知識、こころとからだのしくみ、生から死への過程、「死」に向き合うこころの理解、苦痛の少ない死への支援</p> <p>・終末期ケアとは・高齢者の死に至る過程（高齢者の自然死（老衰）、癌死）・臨終が近づいた時の兆候と介護・介護従事者の基本的態度・多職種間の情報共有の必要性</p> <p><演習内容></p> <p>看取りにおける事例を通してグループワークを行い、死に対しての支援方法や尊厳等を考える</p> <p><添削課題出題のポイント></p> <p>・終末期に関する基礎知識に関する問題</p> <p>・看取りにおける介護職員の基本的態度に関する問題</p> <p>・死にゆく人のこころの過程に関する問題</p>
習	生活支援技術演 ⑬介護過程の基礎的理 解	3時間	<p><講義内容></p> <p>・介護過程の目的、意義、展開</p> <p>・介護過程とチームアプローチ</p> <p><演習内容></p> <p>・アセスメント実施後、個別援助計画の作成</p>			

	⑭総合生活支援技術演習	9時間	<p><講義内容></p> <p>生活の各場面での介護について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点を習得する。</p> <p>・4事例を展開する事例の提示⇒こころとからだの力が発揮できない要因の分析⇒適切な支援技術の検討⇒支援技術演習⇒支援技術の課題⇒評価</p> <p><演習内容></p> <p>・事例を通じて、利用者のこころとからだの力が発揮できない要因の分析をする。</p> <p>・事例を通して、利用者の適切な支援技術の検討をする。</p> <p>・事例を通して、利用者の心身の状況に合わせた介護を提供する視点の理解をする。</p>
	実習	時間	
	合計	75時間	
10 振り返り (4時間)			
	項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
	① 振り返り	2時間	<ul style="list-style-type: none"> ・研修を通じて学んだこと ・今後継続して学ぶこと ・根拠に基づく介護についての要点（利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等）
	②就業への備えと研修修了後における継続的な研修	2時間	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的に学ぶべきこと ・研修修了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における実例（OFF-JT、OJT）を紹介 <p><演習内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・現場職員の体験を聞いた後、グループディスカッションを行い、理解を深める
	合計	4時間	
	全カリキュラム合計時間	130.5時間	

※規定時間数以上のカリキュラムを組んでもかまわない。

※本研修で独自に追加した科目には、科目名の前に「追加」と表示すること